

VOL.138

農協からのお便り

9
2019

グリーン
GREEN
地域と農業をむすぶJA広報誌

今月の表紙

大根出荷最盛期

Topics

- ・女性部一日視察研修
- ・Bブロック研修会
- ・ドローン現地研修会

上川町大根生産組合
大根選果場（菊水）

他

豊洲市場や国会議事堂等を視察… 役員管外視察研修に参加

7/2~5
JA女性部



JA上川地区女性協議会による役員管外視察研修が3泊4日で行われ、両支部2名を含む19名が参加致しました。
研修では豊洲市場や国会議事堂等の視察や、「JAはが野」女性部との意見交流会が行われ、見聞を広めたり他の地域の役員の方ともさらに親睦を深めることができました。

ワイワイとみんなで楽しく過ごせた一日… 一日視察研修を開催

7/24
JA女性部愛別支部

JA女性部愛別支部の一日視察研修を開催しました。
今年は、札幌市にあるアサヒビール園北海道工場を見学し、ビールの製造工程などを学びました。ビールの試飲では、さわやかな香りとすっきりした喉ごしで、出来たばかりのビールの美味しさを堪能しました。その後、北広島市にあるホクレンくるるの杜を見学、道内の各産地から出荷されている野菜などを購入してきました。
ちょっとほろ酔いでワイワイとみんな楽しく過ごせた一日となりました。



素敵なお雪の花フラワーアレンジメントを作成… Bブロック研修会に参加

8/1
JA女性部



当麻町にてJA上川地区女性部Bブロック研修会が開催され、当女性部より31名（愛別16名、上川15名）の部員が参加しました。
今年度は、JA当麻女性部が当番で、花工房 比呂の中島大智さんを講師に招き『大雪の花フラワーアレンジメント』の講習が行われ、普段あまり目にすることのない珍しい品種の菊などで、とても素敵なお雪の花フラワーアレンジメントを作成することができました。
午後からはJA当麻の野菜の出荷場、米の精米施設を見学し、機械で管理された精密な選別作業に感心致しました。
当麻町のまちづくりコンセプトである「食育・木育・花育」を十分に学ぶことができ、充実した研修となりました。

自作ドローンのメリットなどを紹介…

ドローン現地研修会を開催

8/5



愛別町字愛別の星肇さんに講師・実演をお願いして、ドローンによる防除作業等の現地研修会を開催しました。

今回の研修会では、星さんが自作したドローンを参考に、ドローン自作のメリットや費用、必要なキット、代表的なパーツなどについて説明をしていただきました。

また、無人ヘリとドローンを使った農薬散布の作業性の違いや費用対効果などを説明いただいた後、実際に防除作業の実演を見学させていただきました。

先端技術の現状を知る貴重な機会となりました。

新米もお客様に喜ばれる事を楽しみに…

イエスクリーン米の販売スタート

7/24～
コープさっぽろ

コープさっぽろ旭川地区で愛別町産イエスクリーン米ななつぼし・ゆめぴりかの販売がスタートしました。

今回の取り組みで愛別町産米は、コープさっぽろ・アークス・イオン等主用なスーパーでの販売展開となり、お客様に身近に感じて頂ける事を期待しています。

出来秋の新米も、お客様に喜ばれるのが楽しみです。



新品種の試食やドローン飛行デモ…

農業試験場公開デーに参加

8/8

上川農試



上川農業試験場で第24回上川農試公開デーが開催され、水稻新品種「えみまる」の試食やドローンの飛行デモなどが行われました。

当日は、イベントの他にも各JAと旭川農業高校が中心となり、地元特産品のPR販売も行われました。

当JAからは、各種きのこと及びもち米・米なす、大雪高原牛を使ったカレーなどを販売、多くのお客様で賑わっていました。

秋の農作業安全確認運動

農林水産省の最新の調査データによると、全国で300人以上の方々方が農作業中の事故で亡くなっています。

農作業中の死亡事故は一般交通事故の約6倍、建設業の約3倍にも及びます。

又、65歳以上の高齢者の農作業中の死亡事故は全体の8割以上を占めています。

農機事故を未然に防ぐために操作時の安全確認と予防対策をもう一度考えてみましょう。

どんなに注意していても時には失敗するのが人間です。ヒヤリハット体験があれば家族や仲間にもその体験と、ヒヤリで済んだ情報を共有することも事故防止につながります。

地域のみんなで事故防止O!!

声かけ

点検・整備 OK!

ヘルメット & シートベルト

ワンチェック
ワンアクション
で農作業安全

運動期間 9月1日～10月31日
農林水産省

12月号 第2別冊付録

12月号 第1別冊付録

1月号 別冊付録

暮らしに役立つ家庭雑誌
『家の光』
12月号・1月号
購読申し込み
受付中

ハッピーマイライフ
家の光

楽しく、かしこく、未来をひらく
ハッピーマイライフ

「Ienohikari」
家の光

定価(税込) ●第1・第2別冊付録付き12月号 1,027円 ●付録月号(1・4・5・7・9月号) 922円 ●普通月号 629円

※消費税率変更にもない、2019年12月号より定価改定いたします。

JAグループ 家の光協会 〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL.03-3266-9039 <http://www.ienohikari.net> お申し込みはお近くのJA本・支店(所)へ

JAグループ通信

JA北海道中央会



7月31日にJA北海道中央会と各連合会の役員にて、吉川農林水産大臣を含む農林水産省幹部職員及び道内選出与党国会議員等に対して、令和2年度国費予算概算要求に向けた要請運動を実施いたしました。「持続可能な北海道農業の確立に向けた政策提案」に基づき、農業予算の万全な確保に加え、国際貿易協定・交渉対策や労働力確保対策に向けた支援強化、各作物の需給安定対策の構築等を要請しました。また「食料・農業・農村基本計画」と「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」、「経営所得安定対策の交付単価」の見直しに向けては、家族経営基盤の維持・強化の視点や生産現場の実態を踏まえた議論を進めるよう要望しました。

引き続き、JAグループ北海道の政策提案の実現と日米貿易協定交渉については、「農業経営や生産基盤に影響がでないよう適切な国境措置の確保」、「北海道農業を犠牲としない毅然とした対応」を政府・与党に求め、今後も北海道の農家・組合員が安心して営農できるよう取り組んで参ります。



JA北海道信連



地元プロ野球チーム・ファイターズのスポンサーイベントデーとして、7月19日、JAバンク北海道スペシャルナイターを札幌ドームで開催しました。本イベントは、昨年に引き続き2回目になります。今回は、新たにJA特産品の物販コーナーを設けた他、参加JAの女性職員から対戦チーム両監督への花束贈呈を行いました。また、中央会などとも連携して、サポーターづくりに向けたPRを実施しました。



JA共済連北海道



7月18日に札幌・共済ホールにて「全道LA・スマサポ大会」が開催され、平成30年度普及活動で優秀な成績を収められたLA33名と、スマイルサポーター11名が登壇し表彰されました。

JA共済では、これからも「3Q訪問活動」と「あんしんチェック(保障点検活動)」の実践を通じて、組合員・地域利用者の信頼と期待に応え、「安心」と「満足」の提供に努めてまいります。



ホクレン



ホクレンと北海道日本ハムファイターズが連携して、同球団の発信力を生かして北海道農業の魅力を伝える「北海道農業応援プロジェクト」の取り組みが6月28日より開始しました。その一環として、7月13日に同球団マスコットの「ポリー」と「B☆B」が、ホクレン食と農のふれあいファーム「くるるの杜」にて、窯焼きピザを調理する体験イベントを開催し、消費者との交流を深めながら北海道産農産物のPRをしました。



JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。

このたび紙面をリニューアルし、より読みやすくさらに健康に役立つ医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。



JAグループ北海道の連合会・中央会の活動内容をご紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

がんばれ!日本の農業

JAグループ https://org.ja-group.jp/

提言

「金融は農協の本業ではない」とする 大誤解をはねかえそう

安倍政権による農協改革の五年間の集中推進期間が去る五月末で終わった。政府の規制改革推進会議は、農協改革は「一定の進捗が見られた」と評価し、農協改革集中推進期間は延長せず「終了」と明記する答申を、六月六日に安倍首相に提出した。これ以上農協いじめを続けると、参議院選挙でのJAGグループの自民党離れがさらに進むと危惧したからである。

「金融は農協の本業ではない」か

さて規制改革推進会議はともかく、『朝日新聞』（六月四日・大日向寛文記者）の「農協改革 乏しい実感 金融依存進まぬ転換」とする農協改革評価記事は見逃せない。

大日向記者は、農協改革についての

「組合員の評価はいま一つで、本業ではない金融に依存するいびつな体質からは依然として抜け出せていない」とし、農協は「戦後の食糧難のなか、国が統制を進めるためにつくった経緯があり、政府の意向を地方の農家に伝える仕組みとしても機能してきた」としている。

ひよつとするとこれが農業の外からする一般的な農協評価ではなからうか。

第一に、農協は「農業者の所得増」に注力すべきだという「農協改革」・農協法改正に惑わされたのか、また金融頼みの農協経営の実態からか、「金融事業は農協の本業ではない」とする大誤解である。改正された農協法でも、農協の行う事業は、「一 組合員のためにする農業の経営及び技術の向上に関する指導」に次いで、「二 組合員の事業又は生活に必

要な資金の貸付け」、「三 組合員の貯金又は定期積金の受入れ」とされており、金融事業は農協事業の要であり、本業そのものであることには変わりはないのである。

第二に、大日向記者の「本業ではない」とする誤解は、農協の歴史を戦後にしか見ないとところから生まれているともいえそうだ。これに関しては、戦後の総合農協の歴史的基盤が戦前一九〇〇（明治三十三年）の「産業組合法」にあり、ドイツのF・W・ライファイゼンの農村信用組合に学びつつも、わが国の農業・農村の実情に合わせて、信用組合だけでなく、販売組合、購買組合、利用組合の四種の組合の設立を認め、それが戦後の総合農協につながったことについては、故太田原高昭北海道大学名誉教授が、その著書『新明日の農協』（農文協、二〇一六年）



九州大学名誉教授

村田 武

むらた・たけし

昭和17年福岡県生まれ。京都大学経済学部卒業。北海道大学大学院農学院博士後期課程修了。九州大学農学部教授、愛媛大学農学部教授、愛媛大学社会連携推進機構教授などを経て現職。専門は農業政策。博士(経済学)・博士(農学)。

でも強調されたところである。

積極的な地域農業改革への投資を

さて、今、国連は「家族農業の一〇年」(二〇一九〜二八年)を国際社会に提案している。それは、アグリビジネス支配の大経営が担う遺伝子組み換えや農薬・化学肥料依存の「農業の工業化」ではなく、小規模家族農業がしっかり存在してこそ農村は維持でき、気象変動に耐えられる環境保全型農業に転換できることを国際社会の常識にしようではないかという呼びかけである。わが国の農業には、アベノミクスのいう法人大経営中心

の「強い農業」ではなく、兼業・高齢農家を含む多様な生産者と農村定住者の確保で農業と農村の活性化を図るボトムアップ型の改革が求められている。

わが国の農業の根幹である水田農業は、主食用米の完全自給に必要な作付面積を確保したうえで、麦・大豆の生産拡大を本格化させ、畑地におけるトウモロコシや牧草生産に加えて、水田での飼料米やWCS稲(ホールクロップサイレージ稲)の本作化による、酪農・肉牛・養豚などの畜産経営の飼料穀物・牧草栽培のための水田利用を推進することが求められる。そして、本格的に耕畜連携の地域農業

への構造転換が必要である。水田における飼料生産は、とくに都府県の畜産を特徴づけた輸入飼料依存の加工型畜産を本格的に地域の水田耕種農業と結合する畜産への構造転換の契機となりうる。

さらに、畜産廃棄物、すなわち牛や豚の糞尿をメタン発酵原料とすることで、バイオガス製造が可能である。バイオガスは発電用(発電にもなって発生する熱も利用できる)や、ガスボイラーの燃料としても利用できる。メタンガス発生後の「消化液」(ほぼ無臭)は液肥として農地への還元が可能である。つまり、飼料だけでなく廃棄物の循環での耕畜連携が可能で、環境保全型へのわが国の農業の転換につながる。

農協に期待されているのは、こうした地域農業の改革に思い切った投資・融資を行うことである。農協の保有する資金が本格的に地域農業の改革に活かされてこそ、「金融に依存するいびつな体質」などという批判を根拠のない「中傷」だとはねかえすことができるというものである。

するーらいふ 2章

「第1次第2次産業が無ければ生命は維持できない……牡蠣工場」

「牡蠣工場」のタイトルの映画を見た。私達が普通に楽しむ映画とは異質のものだった。

ナレーションもなく音楽もなく淡々と2時間半に纏められた「牡蠣工場」のドキュメンタリーであった。舞台は岡山県の小さい海沿いの牛窓という町である。想田監督の製作手法は観察映画と呼ばれる。映画への評価は観客の自由な捉え方に委ねられている。



漁船に設置されたクレーンが魚場で成長した養殖の牡蠣群の網を静かに吊り上げる。一旦トラックで受けて海辺の牡蠣工場へと運ばれる。映画の冒頭部分ではクレーンの音と波音が効果音の動きをする。クレーンを何度か上下させ吊り上げた網から牡蠣をむしり取る。

海から上がった牡蠣は、牡蠣工場へと大きな受け皿からコンペアーで流れて行く。左右に分かれて牡蠣剥きのパートの女性達が並ぶ。

その真ん中に板壁を立て、板壁の間に牡蠣を落し込んでいるのである。女性達の前には牡蠣を取り出す穴があり、取り出しては器具を入れて口を開け剥き身を手早くボールに入れる。牡蠣工場での同じ循環が繰返されるのである。ナレーションもテロップもない分、執拗に画面を追った。懸命に牡蠣剥き作業をする女性達の中に中国の実習生がいる。

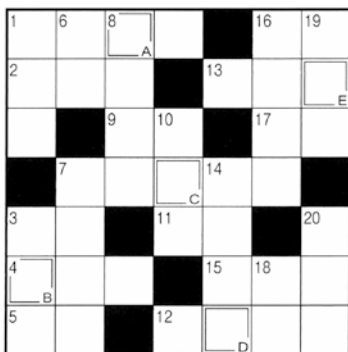
一時期隆盛を誇った牡蠣工場もその数を大きく減らして来た。映画は人々の日常会話を拾い上げているので理解出来る。今回取上げられた工場主も東日本大震災で被災し、東北石巻の牡蠣養殖からの移住組だった。彼が譲り受けた牡蠣工場にも間もなく中国の実習生が訪れる。壁に釘打ちされた予定表がそれを教えてくれる。工場の横に彼等用のプレハブが用意されて行く。近在の高齢の女性と中国からの実習生が牡蠣工場の命運を担っているのか。あの牡蠣を剥く手は余りに熟練されている。中国からの使者は本国の生活を思い直ぐに習得すると言う。例外的には失踪者もあり3日で帰国した例もあると言う。

映画を見ていて次第に、取分け牡蠣産業だけの問題を提起したのではないと言うことに気付かされる。東日本大震災の惨事にも殊更寄り添うことをしない。映画のしおりに「光岡慎二氏」の寄稿文があった。(発展途上国では若者達は「貧しさから抜け出す為に学校で学べ」と言うメッセージを社会から無意識に受け取り続けて来た。第1次第2次産業が無ければ生命の維持は出来ないのにその価値は不当に評価され、社会全体にそうした価値が充填されている。私達はまたその構造上に生きて来た。それは日本だけではなく同じ構造があり、それ等は「文明全体の抱える病」ではないか。そこからは誰も逃れることが出来ず、だからこそ第1次第2次産業で労働力が不足するのだと気付いた。)とある。

何歳までか牡蠣は苦手だった。全くの食わず嫌いだったが。ある日小さなレストランに誘われ、「牡蠣フライ」を口にした。頭の中の妄想の牡蠣の匂いや臭みは飛んでしまった。今ではフライの中で一番手を出す一品となっている。人が口に運ぶものの世界に窮屈な問題は多い。野菜も上手い！果物の滴るような果汁にも唸る。魚介類にも喉が鳴る。山菜にも眼がない。何をどう変化すれば良いのか、時代の流れや回転が大きく変化して行く。

頭の中では今も映画の象徴であった牡蠣を吊り上げるクレーンの音と波音が残る。

パズル? 頭の体操



タテのカギ

- 1 テレビのリモコンにはたくさん付いています
- 3 ならかな——が続く丘陵地
- 6 合唱部が練習するもの
- 7 耳かきと共に行方不明になりやすいそうです
- 8 今からこれじゃ、——が心配だなあ
- 10 仲人から紹介を受けて、伴侶候補と会います
- 14 宴会でグラスをみんなで掲げて……
- 16 相撲の勝敗を記録した——表
- 18 ゴホゴホ
- 19 価格が高くなること
- 20 煮物などに使う、アルコールを含む調味料

ヨコのカギ

- 1 9月1日は——の日。非常持ち出し袋や避難経路を確認しましょう
- 2 高知の名物料理、カツオの——
- 3 皮膚の表面にある細かな模様。——の縮か肌
- 4 食器を拭く布です
- 5 いがに守られた実がなります
- 7 晴れた十五夜にはとても明るい
- 9 矢を射る道具
- 11 隔の反対語
- 12 国や地方自治体に納めます
- 13 首都はモスクワ。大きな国です
- 15 肉料理に添えたり、刻んでスープに浮かべたりする香草
- 16 傘にも風(たこ)にもあります

先月号の答え

パズル? 頭の体操



解答 A B C D E
キ モ ダ メ シ

組合員のうごき

(令和元年 7月 19日現在)

総組合員数	2,358名
正組合員数	534名
うち団体数	35団体
准組合員数	1,824名
うち団体数	62団体

- 1日 JA女性部Bプロジェクト研修会(当麻) 企画会議
- 5日 上川地区農協米対策委員会(旭川) 米集荷推進会議(旭川)
- 7日 第24回上川農業試験場公開ツアー
- 8日 第26回あいへ(夏祭り)
- 14日 もち米団地農協連絡協議会(札幌) 企画会議
- 19日 第2回農家経済対策委員会
- 20日 ゆめびりが生産販売連絡協議会(旭川) 上川町新規就農認定協議会
- 23日 第50回上川地区組合員大感謝祭
- 24日 「Jアス」はる農業体験ツアー
- 26日 第42回上川町ふる里まつり(25日) 酒米情報交換会(旭川)
- 27日 JA青年部役員会
- 28日 内部監査(本所購買課) 購買研究会道外視察(29日)
- 30日 JA畜産振興会親睦会 小城会計事務所税務研修会 第7回定例理事会・状況調査 内部監査(支所購買課) 不稔調査(愛別地区) 農感謝 第11回愛別地区組合員大感謝祭 全道酒米生産技術研修会(江別)

農機センター 休日営業のお知らせ

9月16・23日(祝日)

8:30~12:00
日直で対応します。
電話/6-5004

購読のお勧め
THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS
日本農業新聞
読んで役に立つ! おもしろい! 紙面を紹介します。
●購読のお申し込みについて
1ヶ月 2,520円(税込み)
※お近くの新聞販売店からお届けします。
お申込み先:地域振興係(本所:Tel6-5315・支所Tel2-1113)

未来を拓く協同組合 JAと農業

未来を拓く協同組合 JAと農業 監修=JCA (日本協同組合連携機構)

世界とともに目指す「SDGs」

国連が定めた「持続可能な開発目標(SDGs)」という言葉が、世界中で注目を集めています。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など17の目標が掲げられており、この目標を達成するために各国政府はもちろん、民間の企業や団体の参加と貢献が期待されています。協同組合も達成に当たり役割を果たすべき民間セクターの一つとして明記されており、国際協同組合同盟(ICA)は目標達成に向けた貢献を約束しています。

日本の協同組合でも、例えば日本生協連が「コープSDGs行動宣言」を採択し行動をすすめるなど、SDGsへの取り組みが動き出しています。JA全国女性協も「第65回通常総会の特別決議」の中でSDGsに取り組むことを決定しています。持続可能な社会の実現に当たっては、食料輸入による環境負荷や食品ロスなど、食や農に関連する課題も多く残されています。JAも地域社会の課題解決に努めるとともに、SDGsの達成へ貢献していきます。

語句解説

【持続可能な開発目標(SDGs)】(エスディージーズ)
2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されており、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、17の目標と関連する169の具体的なターゲットが定められています。発展途上国を対象にしたミレニアム開発目標(MDGs)を引き継ぐもので、先進国も含め取り組むこととされています。

SDGsの17の目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう
11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう
16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されており、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、17の目標と関連する169の具体的なターゲットが定められています。		

耕そう、大地と地域のみらい。



丸ごと
マーボナス

今日の
オススメ

材料(1人分)

米ナス	1/2個
豚ひき肉	50g
ゆでたサヤインゲン	3本
サラダ油	適宜
花さんしょう	少々

みじん切りのニンニク、ショウガ
各小さじ1/2

B合わせ調味料

タカノツメ	1本
トウバンジャン	小さじ1/2
テンメンジャン	小さじ1/2
トウチジャン	小さじ1/2
料理酒	小さじ1
しょうゆ	小さじ1/2
砂糖	小さじ1
ごま油	少々

作り方

- (1) 米ナスは縦半分に切り、皮に沿って包丁を入れスプーンで果肉をくり抜き、サラダ油で素揚げにする。
- (2) フライパンにサラダ油をしき、豚ひき肉とAを入れ弱火で炒める。
- (3) (1)でくり抜いた果肉とサヤインゲン、B合わせ調味料を入れ、さらに炒める。
- (4) 素揚げの米ナスを器に見立て皿に置き、(3)の具材を盛り付け、花さんしょうを振る。好みでリーフ(材料外)を散らす。

きのこの里フェスティバル
会場
愛別町農村公園

第33回 あいべつきのこの里フェスティバル 9/8

会場が変わりました

<p>牛肉券 チケット</p>	愛別産牛肉200g・愛別産きのこ食べ放題 プラス Or 飲み放題付 飲料サービス付♪どらもち♪ついで買いください お楽しみ抽選券付	<p>前売券 1,300円</p>	<p>当日券(限定) 1,500円</p>
	<p>新鮮なキノコとおいしい牛肉(愛別産牛肉使用)が盛りたくさん!</p>	<p>予約受付 12302 TEL:016-635-777 (10:00~19:00)</p>	<p>予約受付 643184 TEL:016-635-777 (10:00~19:00)</p>